

授業概要

科目名	嚥下障害Ⅱ				授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	2単位	必修・選択	必須	配当学年 時期	ST2年後期
【授業の目的・ねらい】 本講義では摂食嚥下の基本から嚥下障害患者の多様な病態について理解し、スクリーニングや評価方法を理解する。また多くの困難な点に対応するため、それぞれの病態に対し様々な視点からのアプローチ、訓練技術や治療の実例を通じ基本的な知識と技術を身につける。								
【実務者経験】 言語聴覚士として病院、歯科医院、訪問看護ステーション等に勤務、主に在宅分野にて高次脳機能障害（失語症含む）・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリに従事。								
【授業全体の内容の概要】 摂食嚥下障害について、チーム医療における多職種連携と言語聴覚士との関わりを理解できる。摂食嚥下障害に対する評価法と訓練技術、治療法について、基本的な知識と技術を身につける。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ①嚥下障害のスクリーニングと評価方法、訓練技術について説明できる ②外科的治療や気管切開患者への対応について説明できる ③国家試験に則った知識を身につける								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	摂食嚥下障害Ⅰの振り返り、摂食嚥下障害に関する多職種連携						教科書、配布資料	
2	口腔の評価と口腔ケア						教科書、配布資料	
3	言語聴覚士が行う摂食嚥下に関するスクリーニングおよび評価法①						教科書、配布資料	
4	言語聴覚士が行う摂食嚥下に関するスクリーニングおよび評価法②						教科書、配布資料	
5	嚥下造影検査の概要と嚥下造影検査の見方						教科書、配布資料	
6	嚥下内視鏡検査の概要と嚥下内視鏡検査の見方						教科書、配布資料	
7	中間まとめ						教科書、配布資料	
8	摂食嚥下障害に対しての訓練法（間接訓練）①						教科書、配布資料	
9	摂食嚥下障害に対しての訓練法（間接訓練）②						教科書、配布資料	
10	摂食嚥下障害に対しての訓練法（直接訓練）①						教科書、配布資料	
11	摂食嚥下障害に対しての訓練法（直接訓練）②						教科書、配布資料	
12	摂食嚥下障害に関する外科的治療（喉頭分離術等）①						教科書、配布資料	
13	摂食嚥下障害に関する外科的治療（気管切開）②						教科書、配布資料	
14	経管栄養法						教科書、配布資料	
15	まとめ（国家試験過去問）						教科書、配布資料	
	定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 『嚥下障害ポケットマニュアル 第4版』医歯薬出版								
【準備学習・時間外学習】 各授業前に前回の配布資料や範囲の言語聴覚士テキスト、ポケットマニュアル等で復習しておくこと。講義内で確認テストを行うことがある（ただし、あくまで復習を促すためであり、単位認定は下記の通り定期試験の成績で決定する）								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。								